

ケアセンターけやき

症 例 概 要 利用者氏名：K.I様（60代 男性 要介護5）

利用期間：平成24年1月～現在

既往歴：脳幹梗塞、高血圧、糖尿病、高脂血症、尿路結石、椎間板ヘルニア

経過：平成24年1月より、週5日でデイサービス利用開始。脳幹梗塞の後遺症により四肢の失調および、嚥下障害、構音障害が残存しています。訪問看護やデイサービスでのリハビリを続けることで体幹もかなり安定し、座位保持も長時間可能となってきました。

内 容

デイサービス開始当初は、疲れやすく、腰痛もあり、直ぐにベッドで横になりたいとの訴えが多くみられていた為、横に休まれた時に、好きな音楽等を楽しめるようにジャズ等が聴けるよう工夫していましたが、リハビリを継続する中で、体幹も安定し、腰痛も緩和されてきたきたので、徐々に離床時間を増やすことにしました。その為好きな映画をDVDで視聴するところから開始、徐々に離床時間が増えてきました。その後ネット上で映画が簡単に見れるようになり、平成27年頃からは、パソコンで好きな映画を見れるよう環境を整える事により、自身でパソコンを操作して映画をるところまで可能となった。次の段階として、ただ映画を見るだけではなく、目に見える形でご本人の能力や意欲の向上に繋げていきたいと、担当職員が中心となり、映画のレビュー書きをしてもらう事にした。最初は書く習慣を定着させるために

①映画のタイトル

②評価（Kさんのお勧め度など☆の数で塗って頂く）

③ここが見所

④感想など3行ぐらい書くこと、を昨年の12月後半から開始。

①～④の作業も定着した後、今年の6月からはプリントの感想の所をマス目のあるものにし、その事で誤字はあるものの、一所懸命に書いて下さり、レビューの内容も良くなっていった。書字も上達し、書く事にも自信が持てるようになっていった。また自主的にプリントを提出してくれるようになりKさんにも変化がでてきた。Kさんの現在の目標は、家族へ感謝の思いを手紙で書きたいと仰っています（ただし奥様に恥ずかしくて書けないので、まずは娘さんへチャレンジするとの事）。デイサービス（週5日）での生活を通じて、疲労感強く臥床傾向にあったK様が、職員がご本人の趣味に沿った離床時間向上の計画・提案を行うことで離床時間が増加したのみならず、更には「書く」という事を習慣化することで身体機能の向上に加え、ご家族へ手紙を書く意欲まで持たれるまで向上したことはキラキラ介護賞に値するとし、推薦をいたします。